2008. 3. 31

岡山県立 博物館だより

69号

■ 館長室より …… ②
■ 博物館 NEWS …… ③
■ 特別展を終えて … ④⑤
■ 学芸員ノート …… ⑥
■ 教育普及事業 …… ⑦
■ INFORMATION …… ⑧

〈交流展より〉［国宝］藤原佐理筆詩懐紙

〈特別展より〉岡山県指定重要無形民俗文化財 「唐子踊」公演

〈特別展より〉国指定重要文化財　木造　獅子狛犬（吉備津神社）

学校教育と連携した博物館活動の推進

昨秋、岡山県教委は、昨年４月に実施した「全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）」の結果分析を公表しました。各教科の正答率と、学習環境や生活習慣について児童生徒や各学校に聞いた回答の相関関係の分析がなされています。様々な観点からの分析がありますが、都合の良い部分だけを抜き出してみますと「小中学校ともに、博物館や図書館を利用した授業の頻度が高いほど、正答率が高い」傾向が見られたとのことです。詳細な分析は専門家の方にお任せすることにして、これを機会に、博物館の学校教育との連携の取り組みについて紹介します。

平成１５年に（財）日本博物館協会がまとめた「博物館の望ましい姿」のひとつに、学校教育との連携が今後重要視される課題であるとの指摘があります。従来「博学連携」という表現でその重要性は認識されていましたが、最近では「博学融合」という新たな表現も用いられ、博物館と学校がさらに一歩踏み込んだ「協働関係」に入ろうとする動きも各地にあります。平成１６年に開館し、北陸の名所として脚光を浴びる「金沢２１世紀美術館」は、オープン時に約４万人の小中学生を招待しています。子どもとともに成長する美術館を目指すといわれていますが、本物の芸術に触れることにより、子どもたちの創造力を高め、心豊かな人を育てようという発想のようです。

岡山県立博物館でもこのような動きの中で、様々な観点から取り組みを進めています。まず、入館料については、平成１４年４月から、「文化芸術振興基本法」に基づく青少年の文化芸術活動の充実や「完全学校週５日制」への対応等として、特別展を除き、小中学生を無料にしました。また、平成１９年４月からは、文科省の「博物館の整備・運営の在り方について」の提言を受け、学校教育活動の一環として博物館を利用する際には、特別展を含め小中学生から高校生まで全て無料にしています。

次に、子どもたちを対象とした事業では、従来の館内授業、出前授業の他、平成１８年度から３年計画で、「吉備の国歴史探検ツアー」を実施しています。この事業は、日頃、博物館を利用する機会の少ない県北部等の小学生を対象に、郷土の史跡や遺跡を見学しながら県立博物館に至るバスツアーです。博物館では、仏像や弥生土器など本物の文化財に触れる機会に親しんでもらいます。もうひとつ、一昨年には、夏休み期間中の子どもたちを対象とした展覧会「歴史の中のあそびとまなび」を開催しました。この展覧会では、鎌倉～室町時代の独楽や羽子板から昭和時代の教科書などを紹介し、期間中、多くの子どもたちで展示室が賑わいました。

館内授業「昔のくらし」

このような取り組みによって、全国平均を下回る本県の学力の向上に貢献しようとは思ってもいませんが、子どもたちが早くから博物館に親しみ、岡山の歴史や文化に対する理解を深めてもらうとともに、本物を見る目を養ってほしいと願っています。また、子どものころ博物館に来た人は、大人になってからも、自分の家族を伴って来館するリピーターになってくれるとの期待もあります。今後とも様々な博物館の利用方法を提供し、学校教育にとって利用価値の高い施設を目指していきたいと考えています。

（館長　芦田和正）

津田弘道関係資料の寄贈

このたび、幕末維新期に活躍した岡山藩士津田弘道の関連資料が、岡山県に寄贈されました。岡山県の近代史を物語る第一級の歴史資料で、弘道の曾孫にあたる弘純氏（故人）の妻津田佳代子氏から、岡山県の歴史資料として保存・活用して欲しいと、お申し出をいただいたものです。

平成１９年１１月２３日（金）、当館講堂において岡山県知事感謝状授与式が行われ、芦田館長から感謝状が贈られました。当日は津田家の親族や関係者など約３０名が出席され、先祖ゆかりの資料を感慨深く観覧されていました。

感謝状を受ける津田佳代子氏

大名家の風流と雅　ふたたび

ミュージアムブリッジ in おかやま・かがわ
「高松松平家の名宝Ⅱ　－大名から華族へ－」

岡山、香川両県では、文化交流を推進するため平成１８年度から交流展を開催しています。その２年目となる本年度は、高松松平家の数々の名宝の中から、国宝「藤原佐理筆詩懐紙」をはじめとする書画の優品や近代に収集された絵画資料などによって、大名家の伝統と明治維新後の華族としてのあゆみを紹介しました。

第１章『大名の風雅』では、兄弟である初代藩主頼重と水戸黄門でおなじみの徳川光圀、そして２人の父頼房の書が並び、今回見どころの一つとなりました。他にも表装に葵紋の裂を使った３代将軍家光筆の「松画賛」、重要美術品「後水尾天皇宸翰古歌御色紙」や５代将軍綱吉から拝領した香木なども、水戸徳川家の筆頭分家である高松松平家の格式、また頼重の和歌を通した宮廷との交流を物語るものでした。

第２章『伯爵松平家』では、１２代頼寿に贈られた「蓬莱神山図」（横山大観画）、本県ゆかりの画家正宗得三郎による屏風絵、頼寿の趣味であった小品盆栽の道具などから貴族院議長をはじめ伯爵家当主として広く活躍した頼寿の姿を御覧いただきました。大名家に伝わる雛道具も展覧会を華やかな雰囲気に包んでくれました。その精巧なつくりに目を奪われたお客様も多かったようです。

平成 19 年度交流展ポスター

両館の学芸員が話し合いを重ねて作成。並べると瀬戸大橋がつながり、葵紋と刀の鍔は両県の交流が無限大に広がることを期待してデザインされた。

記念講演会

徳川美術館副館長四辻秀紀氏による講演「高松松平家の名宝—上巳の節供　ひなまつり—」を約 80 名が拝聴する。

ボランティアガイド大活躍 !!

両県での勉強会だけでなく、熱心に独学もした成果を活かして３日間展示ガイドを実施。入館者のアンケートにはガイドさんへのお礼も多数寄せられた。

＜第 19 回全国生涯学習フェスティバル記念事業＞＜おかやま教育の日協賛事業＞

「吉備津神社」

平成 19 年 10 月 19 日（金）～ 11 月 18 日（日）

有形・無形の文化財を残す古社

岡山市と倉敷市の境に近い吉備の中山の東麓にある吉備津神社は、桜、紫陽花、紅葉など四季折々の美しさに抱かれた広大な境内と、国宝の本殿・拝殿、国の重要文化財の南北２つの随神門をはじめ壮麗な建築が軒を並べる、吉備の国随一の規模と歴史を誇る古社です。なかでも有名なのは、比翼入母屋造といわれる二連の皮葺屋根が特徴的な本殿（国宝）です。

大吉備津彦命を主祭神に多くの神々をおまつりしてある吉備国の大氏神と言われる大社で、かつては境内に７２もの末社があったと伝えられています。古式ゆかしい神事、美しい自然、境内の清逸で荘厳な雰囲気を訪ね、また様々な願い事をもって、毎日多くの参詣・観光の人々が訪れています。

此処には数々の貴重な建築物のほか、「雨月物語」で知られる鳴釜神事や七十五膳据の神事（岡山県指定重要無形民俗文化財）といった古式ゆかしい行事や、近年、重要文化財に指定された鎌倉時代の狛犬、建久4（1193）年を最古とする数百点にのぼる古文書など、多くの有形・無形の文化財が残されています。

神主賀陽朝臣某譲状　1193（建久４）年　吉備津神社所蔵

展覧会の開催にあたって

当館では、平成 20 年の完成をめざして本殿拝殿の大改修が施工されているこの吉備津神社をとりあげて特別展を開催しました。おりしも11月2日から6日まで、岡山県では全国生涯学習フェスティバルが開催され、6,703名のお客様を全国から迎えました。この機会に郷土の誇る吉備津神社の歴史や文化財、また数十年ごとの屋根葺き替えを６００年近く繰り返して本殿・拝殿の貴重な建造物を伝えてきた皮葺の技術についても、多くの方々に御紹介することができました。

広報用ポスター

関連事業等の紹介

会期中は岡山理科大学教授　江面嗣人氏による記念講演会「文化財の保護とこれからの岡山～文化財の創造的活用をめざして」に５０名、氏子の皆さんをはじめとする吉備津神社奉祝事業実行委員会の皆さんの御協力をいただいた三味線餅搗＜吉備津餅搗保存会＞には６００名、岡山県指定重要無形民俗文化財「宮内踊」＜宮内踊保存会＞の公演には１５０名の方々がお越しになりました。また、地元の写真愛好家である仙田理一氏より多くの写真を図録や展示に提供いただいたり、郷土玩具作家東隆志氏より愛らしい「吉備津のこま犬」を御紹介いただいたりと吉備津の地元の皆様には大変お世話になりました。

１１月３日（文化の日）には、本殿檜皮葺きに携わっておられる技術者の方による檜皮屋根葺き替え技術の実演＜(社) 全国社寺等屋根工事技術保存会＞を開催したところ、見学者は1,500名を数え、次々に竹釘で皮を留める体験をしました。自然素材を活用する我が国の伝統技術の素晴らしさとその継承についても御一考いただけたなら幸いです。

（学芸員　中田利枝子）

檜皮屋根葺き替え技術の実演

「朝鮮通信使と岡山」

会期：平成 20 年２月８日（金）～３月９日（日）

１６０７（慶長 12）年に江戸時代の第1回朝鮮通信使（回答兼刷還使）が日本を訪れて、４００年が経過しました。これを機に岡山県立博物館では平成１９年度特別展「朝鮮通信使と岡山」を開催しました。

広報ポスター

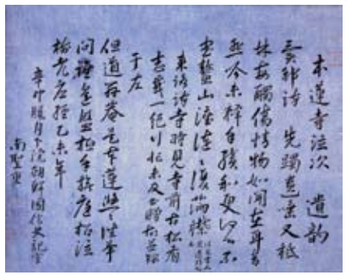
4つのテーマ構成

朝鮮通信使は、江戸時代１２回にわたって朝鮮国王から公式に派遣された友好使節です。通信使一行は瀬戸内海を船で進み、淀川をさかのぼって京都から陸路江戸まで往復しました。途中岡山藩が牛窓で朝鮮通信使を接待し、初期には古刹の本蓮寺がその宿所にあてられました。

展覧会は「朝鮮通信使とは」「瀬戸内海を進む朝鮮通信使」「岡山藩の接待」「朝鮮通信使と人々の交流」の4つのテーマで構成し、朝鮮通信使の概要や、江戸時代の「国際交流」の一端について紹介することをめざしました。

朝鮮通信使ゆかりの町を訪ねる

この展覧会の開催に当たって、資料の調査・借用のために各地に出かけました。韓国や対馬まで調査に行くことはできませんでしたが、資料の借用先は岡山県はもちろん、佐賀・福岡・山口・広島・兵庫県、大阪・京都府、滋賀・愛知県に及びました。まさに朝鮮通信使の道のりそのものでした。西の名護屋から東の名古屋までの資料を集めた展覧会を合い言葉に、学芸員が一体となって準備を進めました。



朝鮮通信使
漢詩書軸
南聖重　筆

瀬戸内市
本蓮寺所蔵

各博物館や所蔵施設では、調査から1年あまりにわたりいろいろと御教示いただきました。各施設で常設展示をしている資料も含めて、合計１００件以上もの資料をお借りして展覧会を開催しました。国指定重要文化財雨森芳洲関係資料については、開会間近にお願いしたにもかかわらず出陳を御了解いただき、滋賀県高月町より芳洲会の方がわざわざ開会式に来席下さいました。

関連事業紹介

展覧会に合わせて、瀬戸内市牛窓町に伝わる岡山県指定重要無形民俗文化財「唐子踊」の公演をお願いしたところ、2回の公演で約３６０名の方々がお越しになり、会場のホールにお客さんがあふれる状況となりました。

また、岡山大学の倉地克直先生と西南学院大学の尹芝惠先生による「いま、朝鮮通信使を考える」と題したダブル講演会も盛況で、約２００名の聴衆で会場はいっぱいとなりました。朝鮮通信使についての関心の高さを改めて認識をした次第です。

ダブル講演会（左：倉地先生、右：尹先生）

展覧会を終えて

本展は会期中5,９２７名の方にお越しいただきました。多くの方に支えられて展覧会を終えることができました。

朝鮮通信使は国と国との交際であったと同時に、通信使として日本を訪れた人々と迎えた日本人との間でさまざまな交流がありました。資料の所蔵者の方、所蔵先の学芸員の皆さんをはじめ多くの方々と知り合い、交流を持たせていただけたことも、この展覧会によるものと感謝しております。

（学芸員　浅野慎太郎）

特別陳列　登録有形民俗文化財登録記念「郷原漆器の製作用具」

郷原漆器は、真庭市蒜山地方に伝わる漆器で、輪切りにした生木のクリ材をろくろで曳き、漆を塗って拭き取る「拭漆」の仕上げが特徴です。江戸時代から日用品を中心に製作されてきましたが、第二次世界大戦後、後継者不足などから一時途絶えました。近年関係者により、積極的な復興への取り組みがなされ、平成18年にはその製作技術が岡山県指定「無形民俗文化財（民俗技術）」の第1号に、平成19年1月には製作用具が本県初の国の「登録有形民俗文化財」に登録されました。

この登録を記念した本展示では、真庭市立川上歴史民俗資料館に保管されてきた江戸時代以降のクロメバチ、ヘラ、ヌシダイなどの製作用具を中心に展示するとともに、現在の郷原漆器製作の様子や漆掻きについても紹介しました。郷原漆器の加飾は沈金が知られていますが、見事な蒔絵を施した椀も並び、多くの皆様に漆や漆芸について理解を深めていただけたのではないかと思います。展示見学をした小学生からは次のような感想が寄せられました。

「・・・おどろいたことは、木のおわんなら汁がしみこむのに、うるしをぬったらしみこまないことです。うるしを何回も何回もぬっているのはすごいと思いました。・・・」

郷原漆器　蒔絵椀

備中の地に14年前植栽された漆から漆液を採取し、平成20年度にはその漆液が地元の漆芸や郷原漆器製作に提供されるようです。郷原漆器にまた新たな歴史が加えられることが今から楽しみです。　（学芸員　信江啓子）

特別陳列「津田弘道とその時代」

幕末維新の動乱の時代に、世界をみた岡山のサムライがいました。その名は津田弘道（1834～1887）。西洋砲術を学び、詩を好んだ文武両道の岡山藩士です。明治4年（1871）、明治新政府の欧米視察団に選ばれ、日本人最初の世界周遊を行いました。帰国後は、その知識を活かし、日本の近代化を推し進めました。

展示では、津田弘道の写真や、手記・書簡・帳簿・辞令などのほか、津田家伝来の武器・武具、書画や書籍などを通じて、時代が江戸から明治へと激変する中で、弘道が歩んだ人生を紹介しました。

今回の特別陳列により、今まであまり知られていなかった岡山の先人に光をあてることができました。今後も本資料の展示や研究を続けていきたいと思います。　（学芸員　佐藤寛介）

津田弘道

明治４年（1871）、欧米視察中にベルリンで撮影した写真。

大礼服（津田弘道着用）

明治時代に制定された洋式の正装で、皇族と華族（旧大名家）のほか、限られた高官だけが着用できた。弘道が明治８年(1875)に判事（裁判官）に任命された際に仕立てたもの。

教育普及事業の概要

当館においては、近年、教育普及事業について推進を図っています。平成１９年度下半期の概要は次のとおりです。

■学芸員解説

毎月第２・４土曜日の１４時から、学芸員が展示内容の解説を行っています。詳しくかつ分かりやすい説明に、今年度も毎回多くの方にお越しいただいています。

■館内授業・出前授業

「館内授業」は当館で実物資料に触れながら、また資料を見ながら行う授業です。「出前授業」は学芸員が直接学校に出向いて行う授業で、いずれも学校教育との連携事業として実施しています。今年度下半期は前者２０校、後者９校で実施し、年間で計５３校と連携しました。

実物の資料を使って実施される館内授業

■職場体験

中学２年生を対象とした職場体験学習について、本年度は３校を受け入れました。合わせて８名の中学生が、それぞれ２日間にわたって、学芸員や受付・看視等の仕事を体験しました。

■吉備の国歴史探検ツアー

１０月４日、本年度３コース目の美作コースを実施しました。午前中は国指定史跡の両宮山古墳や備前国分寺跡（赤磐市）・牟佐大塚古墳（岡山市）を見学し、子どもたちは大きな古墳や初めて見る石室に驚きの声、午後は当館を見学し、展示品を見たりスケッチを行いました。

１月には、本年度の３コースの成果をまとめた報告集を作成し、県内の小中学校や図書館などに配布しました。

子どもたちの生き生きした表情、素朴な感想、一生懸命描いた作品が掲載され、館内や当館ＨＰでも御覧いただけます。

■学芸員実習

７月の７名に続き、１月１７・１８日、学芸員を目指す県内外の学生２０名に、学芸員がそれぞれの専門分野に関わる実習を行いました。その後、学生の皆さんは１～２月中の様々な行事に学生ボランティアとして参加しました。

以下は、実習を体験した学生の感想です。

「実習を通して、展示資料の取り扱い、保存整理はもちろん、講演会の準備やお客様への対応など多くの貴重な経験をしました。この仕事は想像以上に頭も体も使う仕事で、何よりも文化財に対する並々ならぬ熱い思いと真剣さが必要不可欠だと感じられ、中途半端なことはできない職業だと考えさせられました。しかし、そうした学芸員の日々の絶え間ない尽力があるからこそ貴重な文化財を直に見ることができるのだと思います。昨今歴史に対する関心が薄くなっているという話をよく聞きますが、歴史の大切さを広く人々に伝えることのできる学芸員をめざしていきたいと思います。」（倉敷市出身・Ｉさん）

（主任　正木茂樹）

平成20年度前期の展示予定

企画展 流祖200回忌記念「茶道速水流と岡山」
会期　平成20年　4月10日（木）～　5月11日（日）

特別陳列 「閑谷学校関係資料」　会期　平成20年　5月15日（木）～　6月　8日（日）

企画展
～磯崎眠亀没後100年～「藺草の芸術　錦莞筵」
会期　平成20年　7月31日（木）～　8月31日（日）

特別陳列 「大地からの便り 2008 －県内の発掘調査報告－」
会期　平成20年　7月31日（木）～　8月31日（日）

特別展
「日本刀－赤羽刀と備前の名刀－」
会期　平成20年　9月　5日（金）～10月13日（月・祝）

ただいま準備中！　企画展　流祖２００回忌記念「茶道速水流と岡山」

我が国の伝統文化のひとつである茶道には多くの流派がありますが、速水流は江戸時代の後期、速水宗達（1739～1809）によって創始されました。

流祖宗達は裏千家八代一燈宗室（又玄斎）に茶を学び、聖護院宮より「大日本茶博士」の称号と「養寿院」の号を賜り、その茶室名「滌源居」は関白一条道香より贈られました。儒学や和歌にも通じた学者肌の茶人であり、茶道指南役として岡山藩に赴いたことから、岡山に速水流が根付くことになりました。岡山では人見家四代人見宗知（1766～1842）が師範を許され、その門下は藩士から庶民まで数百人に及びました。

この展覧会は、2008年が宗達没後200年にあたることから、ゆかりの茶道具や、書画・文書などの貴重な史料により、茶道速水流を紹介するとともに、岡山と速水流の関係も御覧いただきます。　（学芸員　鈴木力郎）

流祖宗達宗匠坐像
二科会常務理事
小山由寿　作
速水流家元所蔵

流祖好
溜塗枝菊蒔絵曲水指
速水流家元所蔵

流祖が中宮御所に献茶されたときのお道具の一つ。

岡山県立博物館だより　第69号
発行日／平成20年3月31日
発行者／岡山県立博物館　館長　芦田　和正

〒703-8257　岡山市後楽園1－5
TEL：086－272－1149　FAX：086－272－1150
URL　http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/hakubu.htm

この用紙は古紙・再生紙を含んでいます。